

へき地医療とICUに  
培われたジェネラリスト

中島 隆秀



## 急性期治療に自信あり

人生の終末期にその人が思い描く  
過ごし方を可能な限り叶える姿に感  
動し、医学部に入学。医学部生のこ  
ろは離島・へき地医療に進む先輩方  
の姿に憧れました。卒後はジェネラ  
リストを目指して離島医療に携わ  
り、重症管理を学ぶためにICUや  
総合診療科で働きました。救急と集  
中治療は一通り経験したため、急性

期治療はほぼ何でも対応できる自信  
があります。

## 患者本人の希望を 叶える提案を

急性期でも在宅医療でも、医学的  
に正しいかどうか以上に、患者さん  
本人がどうしたいかをしっかりと聞き  
取ります。ご本人やご家族にただ選  
択を迫るのではなく、患者さんの希  
望を叶えるために、医学的な知識を  
もとに「本人の希望からはこれがお  
勧めです」と提案したいと思ってい  
ます。提案がびつたりハマると、す  
ごくやりがいを感じます。

## profile

中島 隆秀 (なかしま・たかひで)

琉球大学卒。沖縄県の初期研修  
後、GENEPROに参加して長崎県五  
島列島の新上五島町へ。その後、  
名古屋掖済会病院救急科、東京ベ  
イ・浦安市川医療センターICU、洛  
和会丸太町病院総合診療科、塩田  
病院（千葉県勝浦市）総合診療科  
をへて2024年5～6月にオーストラ  
リアへき地医療学会のサポートで  
渡豪。同年7月から現職。

## 中島先生にさらに聞いてみました！

1. おうちの診療所らしいと  
思ったのは？

他の医療機関や事業所の方と  
お話すると、ACPを啓発する  
ボードゲーム「エンディング  
ゲーム」や、自治体とのイベ  
ントなどでおうちの診療所を  
知ってくれている方が多いこ  
と。診療以外のところでも地  
域とつながって、医療全体の  
底上げができていく感覚があ  
り、それがおうちの診療所の  
特徴かなと思っています。

2. 在宅医として心がけてい  
ることはありますか？

医師が意思決定するのではなく、  
意思決定を「支援」する  
シェアード・ディシジョン・  
メイキング (SDM) の実践で  
す。「先生にここまで話せて  
良かった。なんだかスッキリ  
した」と感謝されることが多  
く、うれしく思っています。